

令和8年 第2回定例会 一般質問通告表

NO. 1

通告順	議席番号	通告者	項目	件名	質問の要旨	答弁者
1	8	藤原 芳幸	1 行政、教育	人口減少に基金減少、これからのまちの運営は	<p>美深町は人口が減少することを前提とした町の運営を進める必要がある。昭和35年の14,046人をピークに今日まで65年間減少が続いているが、本町のまちづくりは日本の高度成長にも支えられ、昭和46年に総合計画が制定されて以来、時代の要請に応じて計画が作られ、特に昭和50年代から平成にかけて町内のインフラ整備が一気に進んだ。第6次総計は6年目を迎えたが、そのインフラの老朽化が大きな問題となっている。本年度は老朽化した体育館や特別養護老人ホーム改修、広域での焼却炉建設が重なり一般会計予算は72億8,900万円と過去2番目となる予算になり基金も大きく減少する。完成後は予算編成も厳しくなり、事業内容が極めて重要になるものとする。</p> <p>また人口減少が続く現状では地方交付税や町税等にも影響が及び、更には国の人口も減少に転じており、これまでの人口減少とは背景が異なってくる。これまでの行政サービスや産業基盤を堅持していくことが厳しくなることが想定され、定住人口が減少する現実を踏まえ、規模が縮小しても安心して暮らせるまちをどう築いていくのか、町長と教育長に考え方を伺う。</p> <p>1 今後の人口推移をみると町有施設の再編は避けられない。町も整理が必要との認識から老朽化した町有住宅を主に整理しているが、他の施設についても施設再編のボーダーラインを設定し、統廃合や有効利用を進めるべきと考える。</p> <p>特に学校の在り方は重要な問題であり、道内各地では学校の小中一貫の取り組みが進んできており理由はどこもほぼ同じであり、本町も議論を進める必要があると考えるが町長、教育長の考えを伺う。</p>	町長 教育長

通告順	議席番号	通告者	項目	件名	質問の要旨	答弁者
					<p>2 本町は事業評価制度を取り入れ次年度に反映させているが、厳しくなる財政状況下では、より各種事業における効果や目的の達成度の精査が必要である。</p> <p>今後の社会情勢を鑑みると更なる事業コスト増は避けられない状況で、歳入が増えなければ全ての事業を同じように継続することは難しくなり、「あれもこれもから、これよりもこちら」と優先順位を明確にする必要性を感じるが、現状では町全体が今後への危機意識が薄いように感じるが町長の認識を伺う。</p> <p>3 農業者の減少は町の人口減にも繋がる問題で、様々な手は打っているが残念ながらこれまでも離農者が発生しており、耕作地は規模拡大で耕作面積を維持してきたが、今以上の規模拡大は厳しい話も聞く。まず現行の農業経営者が安定して経営できる環境を維持するとともに、規模拡大を目指す経営者には支援策を講じ、この地で営農活動を続けてもらうことが重要であり、今後の美深農業に対する町長の考えを伺う。</p> <p>4 職員は全員が机に PC を備え作業を行っているが、デジタル化が進んだとは言い難い。デジタル技術を有効活用し作業効率の向上を目指すべきではないか。また事務事業に AI の活用を想定した利用条件整備も必要になってきている。もはやデジタル技術は行政運営に不可欠で、DX（デジタルトランスフォーメーション）の人材育成を行い積極的に活用していく必要があると思うが、今後のデジタル化に対する町長の考えを伺う。</p> <p>※ 1は町長と教育長に、2～4は町長に伺います。</p>	

通告順	議席番号	通告者	項目	件名	質問の要旨	答弁者
2	2	望月 清貴	1 行政	町長のメッセージを定例発信してはどうか	<p>本町では、毎月初日（またはその前後）に三役と管理職による会議を行い、その月々の業務の推進について確認が行われ、町長からの指示を伝達し、併せて必要な議論を行っていると考えている。</p> <p>町民との日常的なコミュニケーションを深め、役場と町民が一体となった笑顔あふれる元気なまちを目指すため、町長から町民に向けて、防災情報端末機の活用などにより、毎月メッセージを発信してはどうか。</p> <p>1 これまで多くのイベントや講演会、各種総会でのあいさつなど、歴代の町長が直接語りかけることで町民が親近感と真剣さを感じとり、町政の動向や町長の考え方について理解を深めたと感じている。</p> <p>各月に開催されるイベントの案内や町民への様々な注意喚起、重要なことからの簡潔な報告や説明会の周知など、町長の生の声で発信することで、子どもから高齢者まで老若男女を問わず意思疎通が深まり、行動に移していただくことにもつながるのではないかと考える。</p> <p>防災情報端末機を活用して短い動画を配信するなど、日常的に耳を傾ける習慣づくりにもなり、緊急時の確実な視聴のためにも検討と実現を期待するが、いかがか。</p>	町長
			2 交通	鉄道路線の維持存続について	<p>私の父、祖父ともに日本国有鉄道の職員であった。また、私が美深町に居住して間もなく、国鉄の分割民営化が行われた。</p> <p>本町を南北に縦貫する宗谷本線は、最北の厳しい自然環境に耐えながら、運営会社や沿線市町村の懸命の努力によって維持され、公共交通の柱として国民の日常生活、観光、物流などの経済活動、道北地域の維持・発展など、本町のみならず沿線市町村、北海道、そして日本国にとって重要な鉄道路線と考えるが、（全道一円の会社で、区間を区切ること自体いかがと思うが、）名寄市以北の区間は、運営会社単独での維持が困難とされている。</p>	町長

通告順	議席番号	通告者	項目	件名	質問の要旨	答弁者
					<p>かつての運営者である国は、人口が少ない地域についても経営の抜本的改善方策の報告を迫り、運営会社と地域の協議を見守るとしているようだ。</p> <p>名寄市以北の沿線のはじまりの町として、また、かつて美幸線存続に取り組んだ町として、現時点での考え方を伺う。</p> <p>1 報道によれば、沿線市町村に対して上下分離方式が再度提起されたようだが、本町にも正式な提示が行われたのか、行われたのであれば、その概要はどのような内容で、短期間でどうやって町民と議論していくのか。</p> <p>また、協議は一時保留中とされているが、仮に上下分離方式を採用する場合、沿線市町村には維持管理に必要な財源やノウハウがあるのか。</p> <p>2 これまで、本町においても駅の廃止が進んだが、各種の町内公共交通の確保・運営と併せ、鉄道駅舎の維持管理、切符販売体制の維持など、町民の利便性の確保にも努力を続けてきた。</p> <p>また、運営会社の経営努力とも連携し、沿線市町村と北海道による利用促進策も進められ、今後もその継続は適切であり、必要と考える。</p> <p>しかし、単独市町村内にとどまらない複数市町村、複数の総合振興局をつなぎ、国としても重要な鉄路を維持存続する判断、そして、それを維持するこれまで以上の責務は、もはや沿線市町村を超えていないか。</p> <p>路線維持の必要性について責任をもった判断を行うことと併せ、人口が少なくても重要な鉄路を維持できる経営と、老朽化する鉄道施設の適切な維持・更新も必要な状況であり、費用負担を含めて対応できるのは国のみであり、国の主体的な関与がなければ困難と考える。</p> <p>今後、町長はどのような姿勢で臨むのか、現時点の考え方を伺う。</p>	

通告順	議席番号	通告者	項目	件名	質問の要旨	答弁者
3	1	木下 広悠	1 商工・観光	チョウザメ産業の実績と継続の妥当性について	<p>美深町では、1983年に三日月湖へチョウザメを放流して以来、40年以上にわたりチョウザメ事業を継続してきた。</p> <p>本町を象徴する取り組みの一つとして認知されている一方で、売上目標やキャビア生産量などについては、行政評価（2次評価）のチョウザメ振興事業における販売額等の目標との乖離も見受けられることから、事業の成果や今後の方向性について、町民に十分共有されているとは言い難い状況もあると考える。</p> <p>長年継続してきた事業であるからこそ、これまでの投資や成果を整理した上で、今後どのような方向性で事業を継続していくのか、改めて町の考え方を伺う。</p> <p>1 チョウザメ事業振興計画を制定した平成30年度から現在までの人件費を含めた総事業費で、国や道の補助金を抜いた町の実質的な負担額は。</p> <p>2 チョウザメ事業による本町への効果について、これまでの定量的成果及び定性的成果をどのように認識しているか。 また、観光、交流人口、地域ブランド化などへの波及効果をどのように検証しているか。</p> <p>3 売上達成率やキャビア生産量など、当初目標との乖離が長期間続いている現状について、町としてどのように分析しているか。 また、今後、収益性や生産性の改善を見込んでいる場合、その根拠及び具体的な見通しは。</p> <p>4 チョウザメは本町のシンボルの一つとして定着しているが、観光・地域振興への活用に重点を置いた事業規模の縮小化について検討する考えはあるか。</p>	町長

通告順	議席番号	通告者	項目	件名	質問の要旨	答弁者
				美深町の観光の方向性及び課題について	<p>美深町には豊かな自然環境や食、体験型観光など多くの観光資源が存在しており、観光をきっかけとして関係人口や移住につながる可能性を大きく有していると考えます。</p> <p>一方で、個々の観光資源やイベントは存在しているものの、それらを面的に結び付ける戦略や、「美深町として何を主軸に観光振興を進めていくのか」という方向性が十分整理されていないようにも見受けられる。</p> <p>今後、人口減少が進む中で交流人口及び関係人口を増加させていくためにも、改めて本町の観光戦略及び将来的な観光像について伺う。</p> <p>1 本町の観光は通過型・経由型の側面が強く、宿泊や長期滞在による消費拡大に十分繋がっていないと考えるが、町として宿泊型・滞在型観光への転換を目指す考えはあるか。</p> <p>2 滞在型観光を実現するためには、本町単独ではなく、上川北部地域などとの広域連携による観光圏形成が必要と考えるが、過去の広域連携の課題も踏まえた上で町長の認識は。</p> <p>また、本年3月定例会の予算審査において、モンベルフレンドタウンを活用した広域連携について一定の考えが示されたところである。今後の観光振興における重要な手法の一つと考えるが、町長としての認識及び推進に向けた考えを改めて伺う。</p>	町長